



ICU 高校発 003 号
2021 年 11 月
国際基督教大学高等学校
校長 中嶋 裕一

コロナ禍に負けず実りの秋を楽しむ ICUHS 生を応援してください。

卒業生の皆さま、いかがお過ごしでしょうか。ようやくクリスマス喜び祝う季節を迎えるころとなりました。この学期、ICU 高校では実りの秋を共に楽しむことができました。

日常生活が大きく制約される日々にあって、人と人との関係性も疎遠、また希薄なものになってしまいがちですが、この秋のさまざまな行事をきっかけに、生徒と教職員、また保護者の皆さまが共に交わりを深め、互いにつながりあうことができました。

ほんの数か月前には、「医療崩壊」が叫ばれるたいへん厳しい状況でした。どのような感染状況であっても安全に実施できるようにと慎重に準備を重ねた学校祭や校外学習（遠足）などを、予定どおりに実施でき、また生徒の皆さんの豊かな思い出となったであろうことに、教職員一同、心から安堵しております。



行事における ICU 高校生の活躍を間近に見ていて、自分たちの学校生活を、自分たちの力で楽しもうという熱い気持ちを感じます。すでに学校祭のようすなどを本校 HP や Facebook にてご報告しておりますが、後輩らの熱い気持ち、満足、喜び、美しい表情をお確かめいただければと思います。

ICU 高校 スクール・ナウ
https://icu-h.ed.jp/school_now/



Facebook (ICUHS Hodgepodge)
<https://www.facebook.com/icuhs.hodgepodge/>



中間試験後には、コピーライター阿部 広太郎さんの「広告ワークショップ 人を動かす言葉って?」、ハロウィンに賑わう日の午後には、本校卒業生（2 期）の 村山 斉さんの講演「わが故郷としての宇宙 好奇心こそ人類の存在意義」、図書館講演会「私たちはどう生きるか 上野 千鶴子先生とともに考える」、進路部主催「卒業生を囲む会」などが対面を中心に行われました。卒業生（29 期）の声優 内山 昂輝さんの文化講演会（父母の会主催オンライン）「表現する仕事 -内山昂輝と ICUHS-」も楽しいひと時でした。ICU 高校の学校文化の豊かさが、まるで二年分を一気に取り戻すかのように輝きを回復しようとしていることが、嬉しくてなりません。



二年近くなる感染症への対応についてです。「三密」と申しますが、幸い学校は「夏暑くて冬寒い」、換気のよいところです。とくに本校では、この夏休みに普通教室棟（N 棟）に強制換気システムを整備し、授業もドアを開けて行うよう徹底しています。ただ学校というところは同年齢の生徒を大勢集めて、集団の中で、一人ひとりを育てるところです。また時にオンライン授業にも切り替えますが、基本的に生徒と生徒、教員と生徒が密に話し合い、学び合い、教え合うことを大切にしています。ここに ICU 高校の教育の特徴、また教育のよさがあります。日々、生徒、教職員 900 名近いコミュニティが、一つの建物の中で毎日、がやがや、わさわさと共に過ごしています。それが高校の魅力です。ソーシャルディスタンスに気を配りながら、しかし濃密な関係性の中で生徒を支え育てようと思っています。

思い出してみると昨年 2 月末、突然の休校要請が小中高校に対して示されました。パンデミックという状況にあって、最初に制約を受けるのが学校であり、また最後まで制約が残るのが学校であると感じています。だいたい落ち着きを取り戻しましたが、いまだ学校は非常時、災害下から回復できたとは申せません。学校が感染症対策を徹底し、学校の安全、生徒の安全を守ること、家庭の安全を守り、社会の安全を守る。そのような日々を当面は続けていかなければいけないと考えています。

長期化する困難な状況の中で、まず生徒の学びを守る、次に豊かな学校文化の回復を図る。これらに加えて、海外にいる中学生とそこそ家庭を孤立させないという、帰国生受け入れ校としての発信。こんなプライオリティで、生徒と教職員が必死になって、一丸となって、共に歩んできた二年間でした。



卒業生の皆さまには、いつも母校を想い、またご支援をいただいておりますこと、心より感謝申し上げます。これまでお願いしてまいりました少人数レベル別授業の維持、グローバル教育プログラムの充実、オンライン授業を支える ICT 環境整備、学寮五棟の改修に加えて、今夏の N 棟換気空調設備の更新、また来年度以降には、グラウンド整備、2009 年竣工の体育館設備の充実などが計画されており、皆さまのご支援を仰ぎたく、心よりお願い申し上げます。

いつかお目にかかって親しくお話できる日が戻ってくることを信じて、皆さまの健康と安全をお祈り申し上げます。この春、41 期生が巣立ち卒業生は 10099 名となりました。皆さまが、世界各地また国内各所においてそれぞれの仕事や生活、活動を通して平和と人権を拓く本校の使命を分かち担ってくださる。これほど喜ばしく心強いことはありません。卒業生の皆さまは、学校の宝であり、私たちの誇りです。学校では、折に触れて皆さまを覚え祈っています。

この春、原 かおり先生が退任され、新しい教頭には、青山 明子（国語科）を迎えました。松坂 文教頭・帰国生徒教育センター長と共に、力を合わせて ICUHS を守り支えています。引き続き、祈りとご支援をお願い申し上げます。